

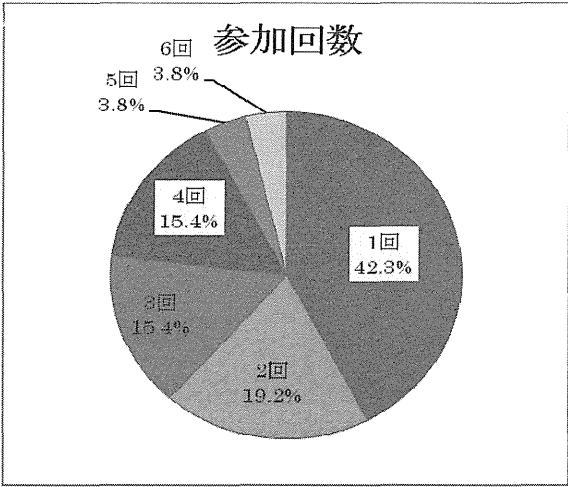


図 4 医療機関でのプログラムにおける参加回数の分布

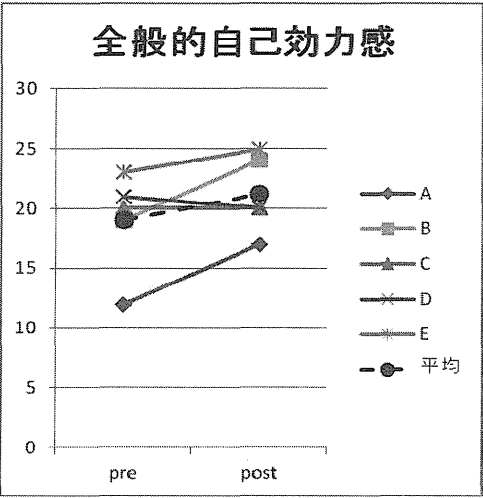


図 5. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の全般的な自己効力感の変化

平均値の変化に関して,Wilcoxon の符号順位和検定を行うと,有意差は認められなかった。

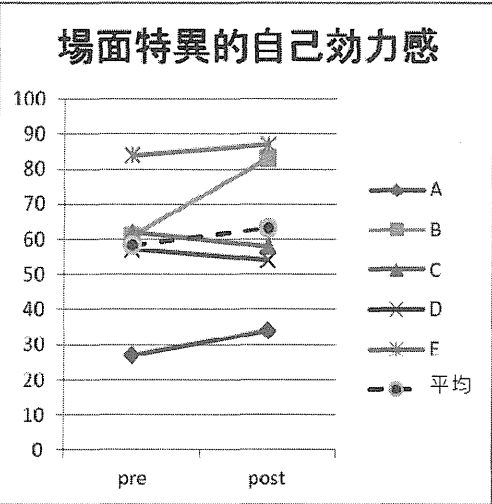


図 6. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の場面特異的な自己効力感の変化

平均値の変化に関して,Wilcoxon の符号順位和検定を行うと,有意差は認められなかった。

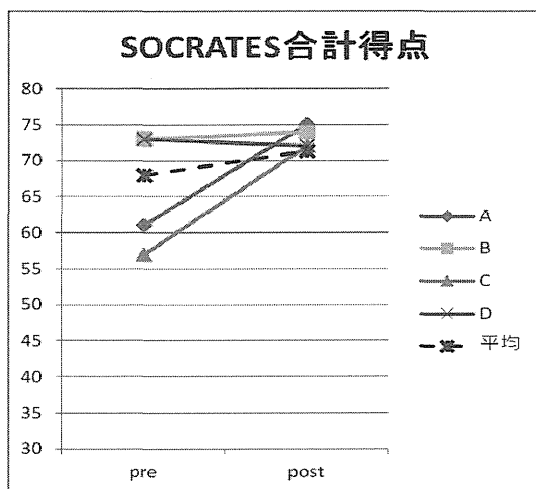


図7. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の SOCRATES 合計得点の変化

平均値の変化に関して,対応のある t 検定を行ったところ,有意差は認められなかった。

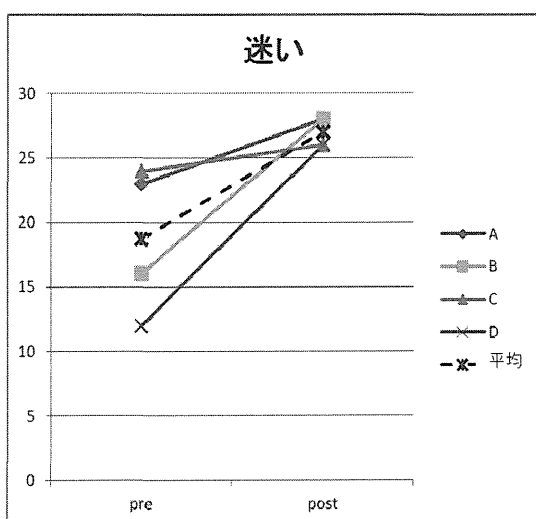


図8. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の SOCRATES 「迷い」 得点の変化

平均値の変化に関して,対応のある t 検定を行ったところ,有意傾向 (P=0. 062) であった。

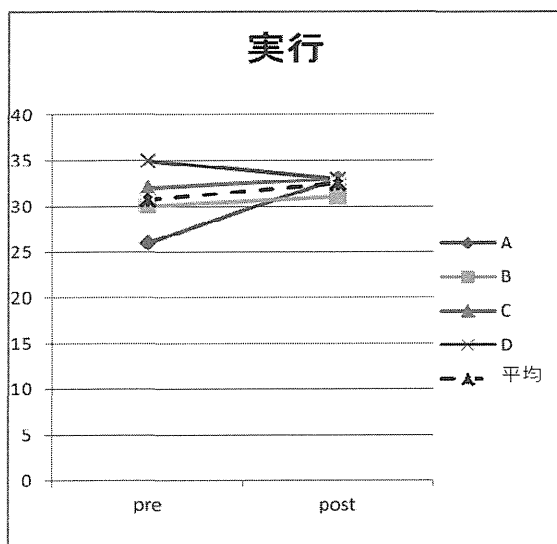


図9. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の SOCRATES 「実行」 得点の変化

平均値の変化に関して,対応のある t 検定を行ったところ,有意差は認められなかった。

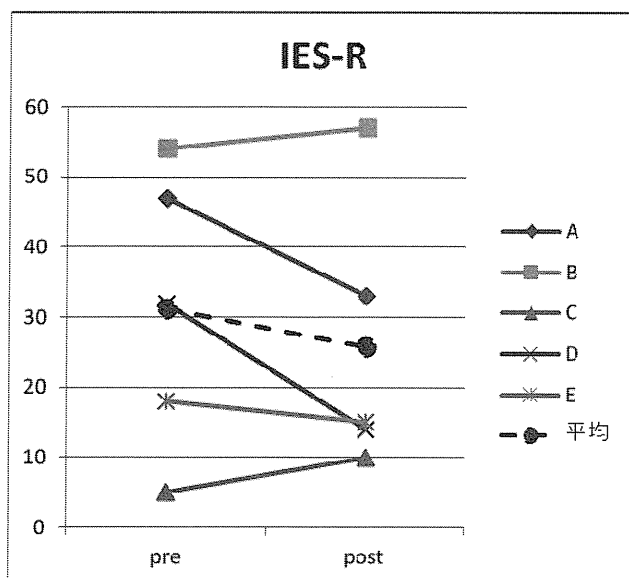


図 10. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の IES-R 得点の変化

平均値の変化に関して,対応のある t 検定を行ったところ,有意差は認められなかった。

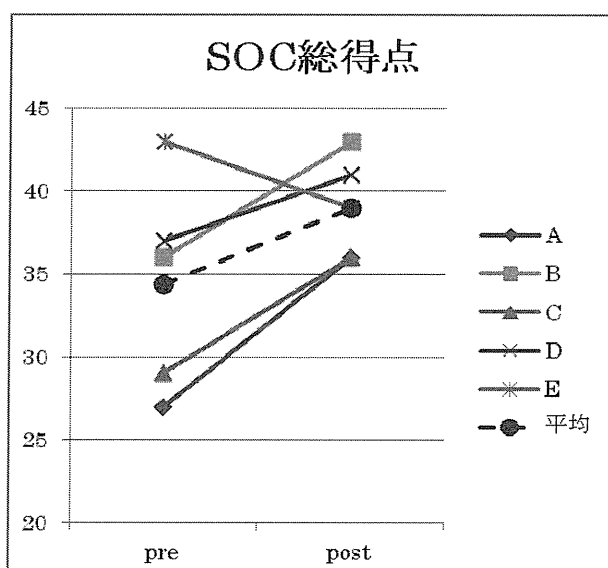


図 11. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の SOC 得点の変化

平均値の変化に関して,対応のある t 検定を行ったところ,有意差は認められなかった。

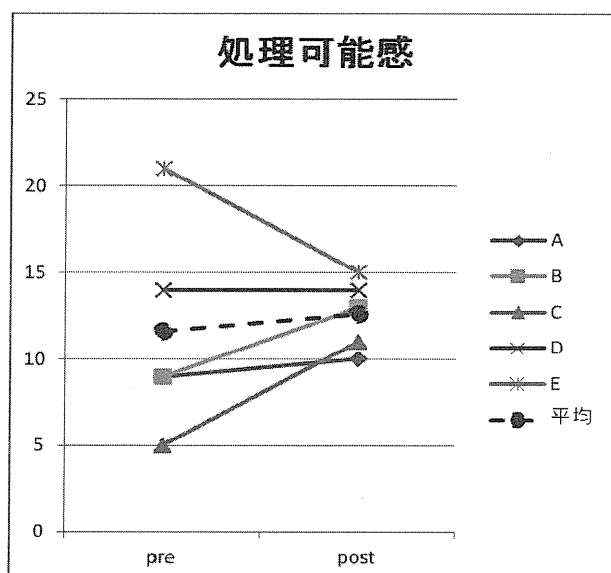


図 12. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の SOC の「処理可能感」得点の変化

平均値の変化に関して,対応のある t 検定を行ったところ,有意差は認められなかった。

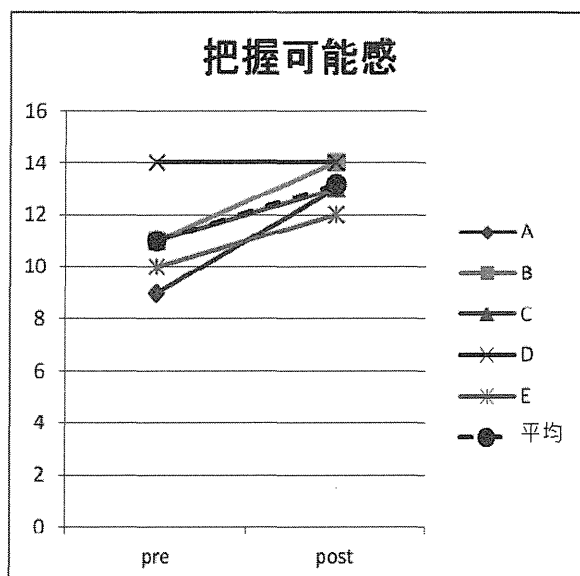


図 13. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の SOC の「把握可能感」得点の変化

平均値の変化に関して,対応のある t 検定を行ったところ,有意差を認めた ($P=0.0295$)。

。

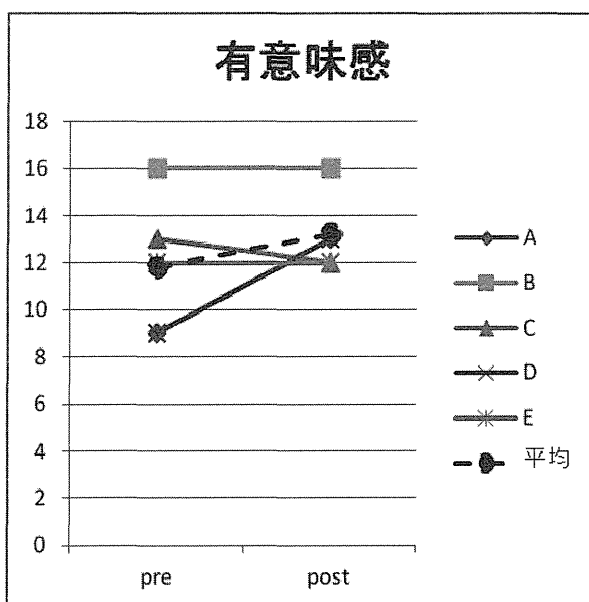


図 14. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の SOC の「有意味感」得点の変化

平均値の変化に関して,対応のある t 検定を行ったところ,有意差を認められなかった。

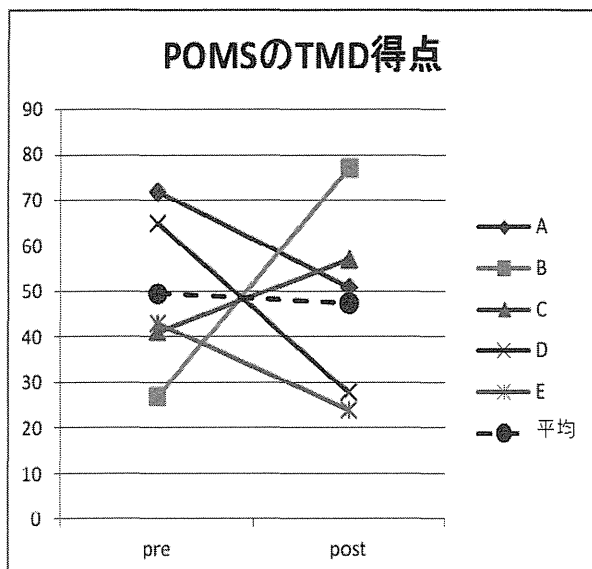


図 15. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム前後の POMS の TMD 得点の変化

平均値の変化に関して,対応のある t 検定を行ったところ,有意差を認められなかった。

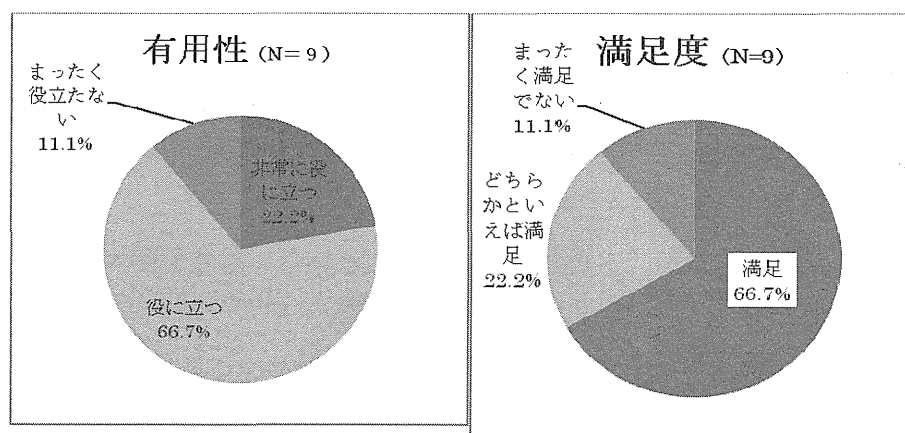


図 16. 女性薬物依存者社会復帰施設でのプログラム後のプログラムに対する主観的評価

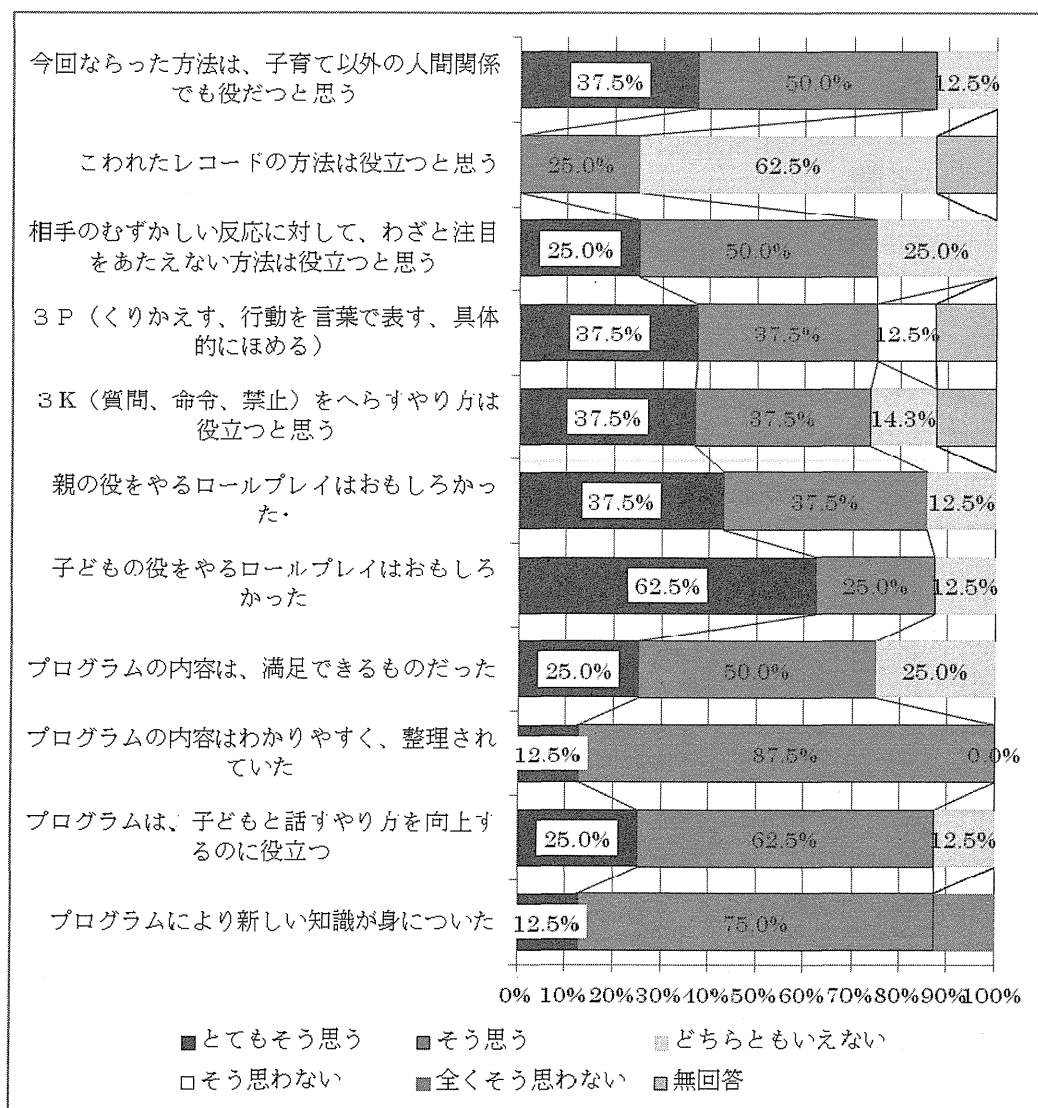


図 17. 子育てスキルの内容（CARE プログラム）に関する主観的評価 (N=9)

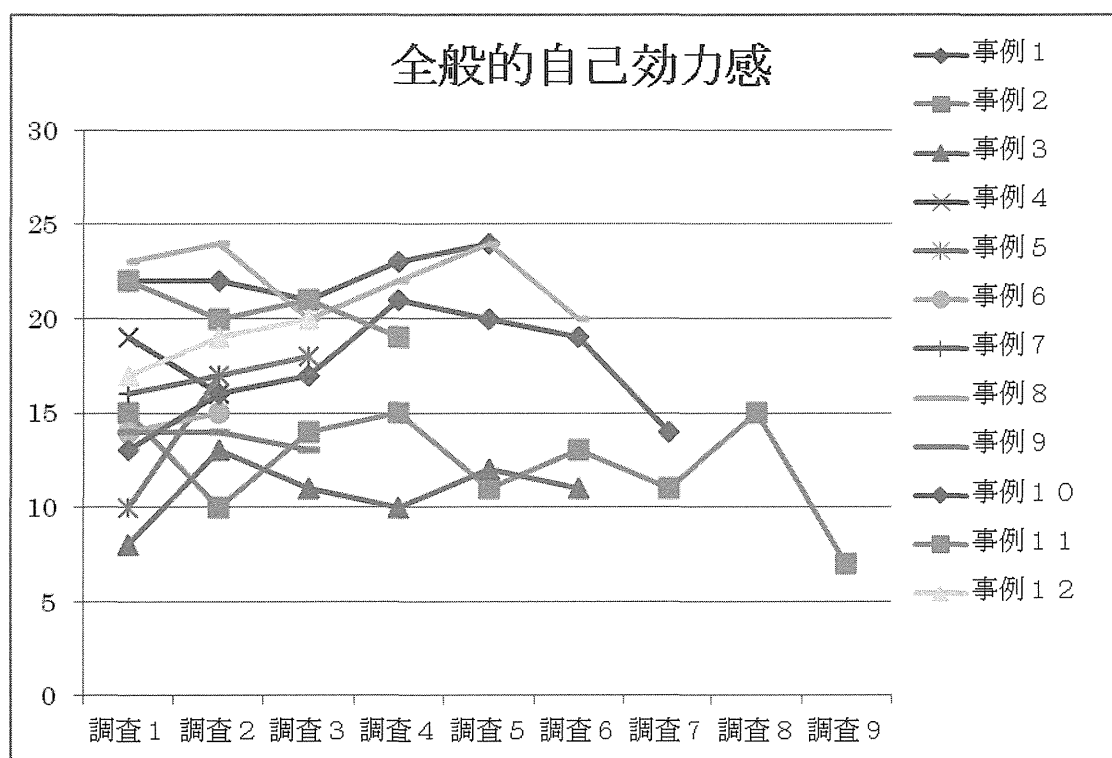


図 18. 医療機関におけるプログラムによる全般的な自己効力感の変化

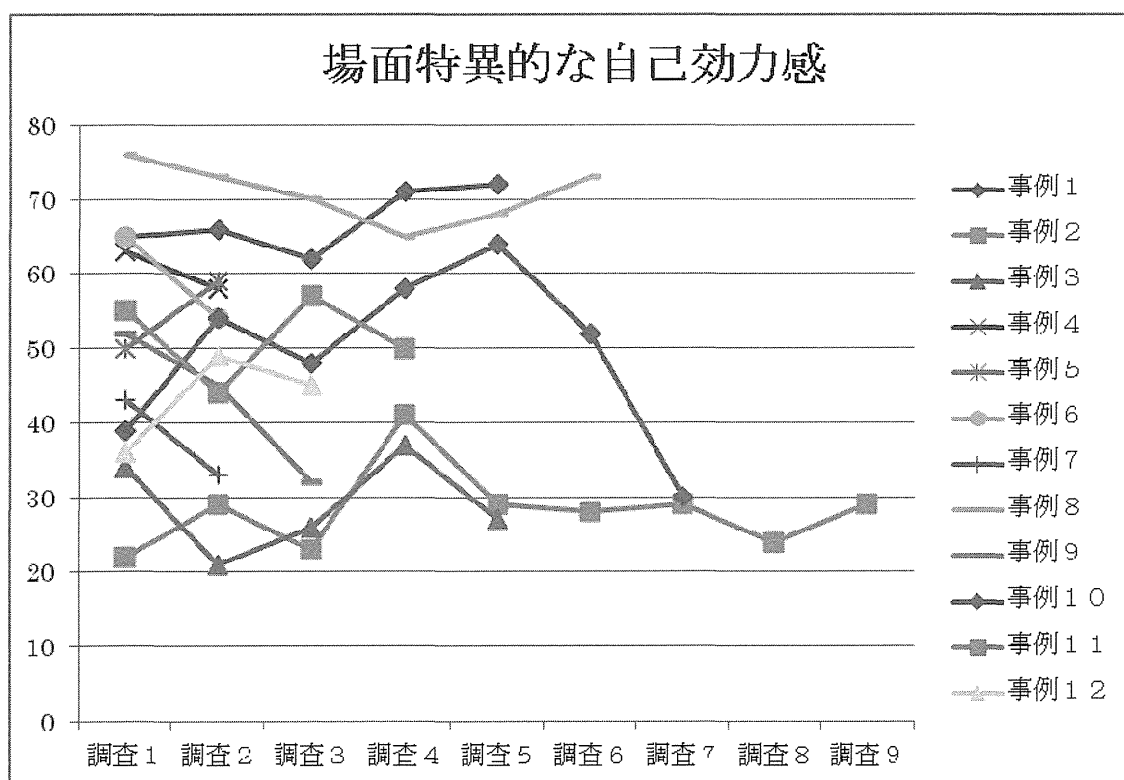


図 19. 医療機関におけるプログラムによる場面特異的な自己効力感の変化

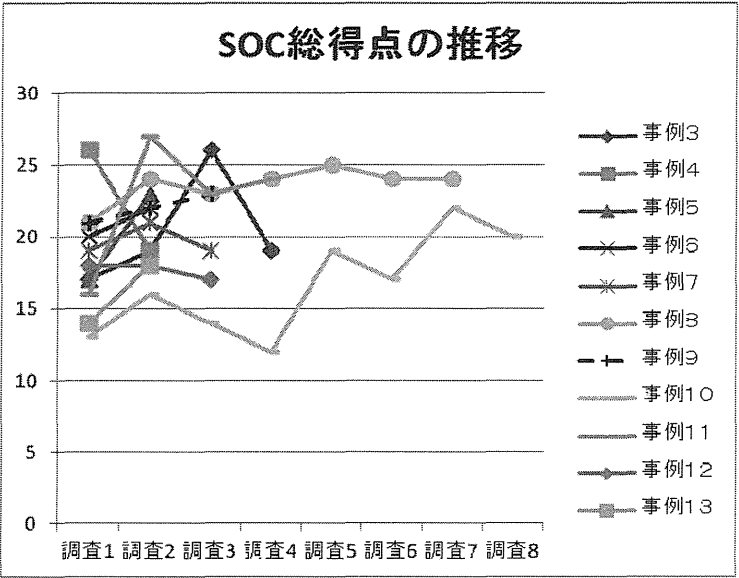


図 20. 医療機関におけるプログラム施行における SOC 得点の推移

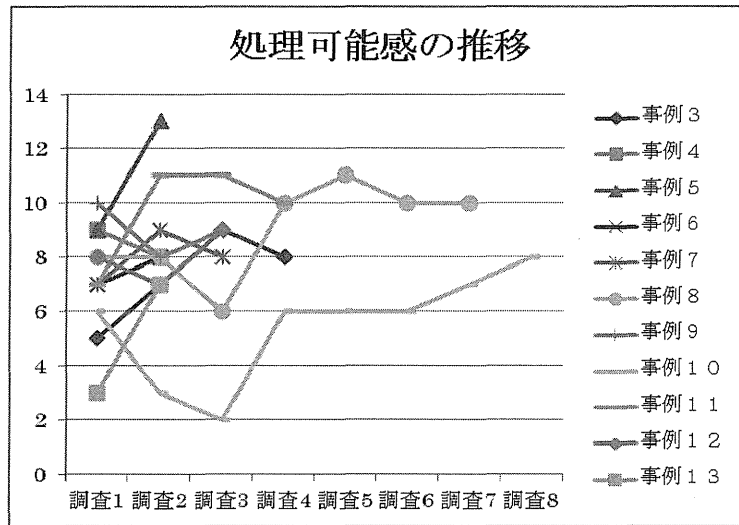


図 21. 医療機関におけるプログラム施行における「処理可能感」得点の推移

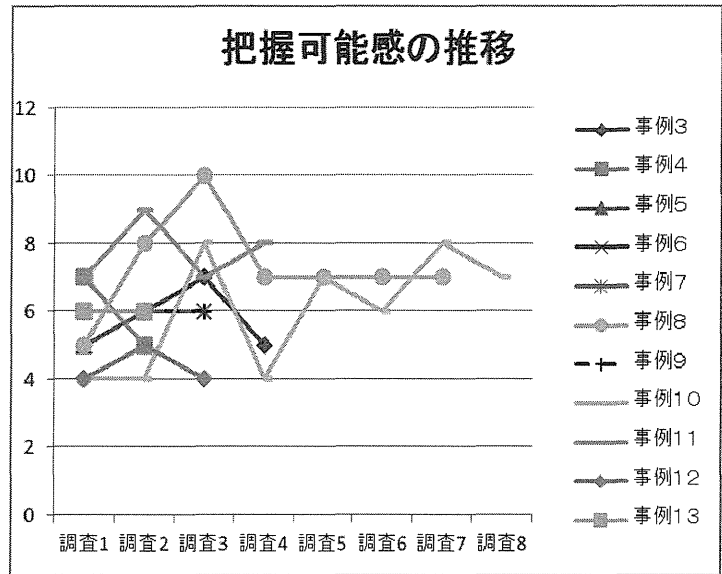


図 22. 医療機関におけるプログラム施行における「把握可能感」得点の推移

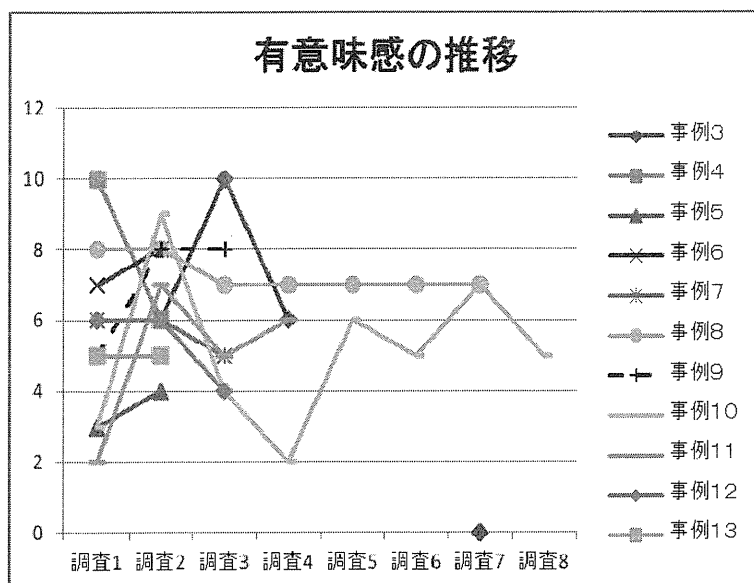


図 23. 医療機関におけるプログラム施行における「有意味感」得点の推移

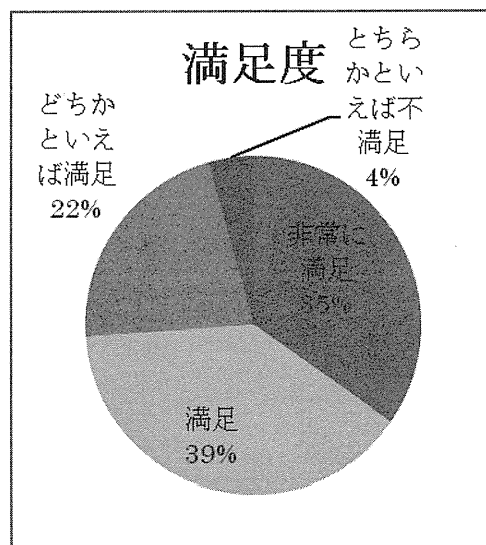
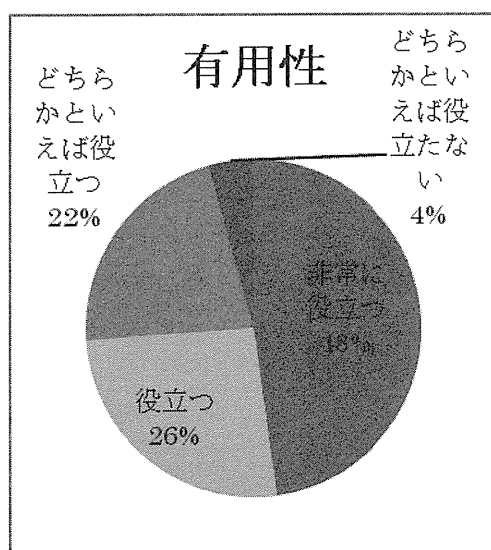


図 24..医療機関におけるプログラムの主観的評価

表 1. 刑務所用プログラムの内容

回	テーマ	概要
1	薬物依存症によるダメージと回復	・クスリによってどんな影響をうけてきたかをしろう。・これからどんな自分になりたいかを考えよう。
2	再発とその「きっかけ」「危険な状況」への対処	・クスリをつかってしまう「きっかけ」や「あぶない状況」を考えて、どんなふうにきりぬけるかをかんがよう。
3	自分の依存症を認めた上での回復計画をたてる	・自分のこころや体をどのように回復させていくかをかんがよう。
4	まわりの人と、良いつながりを持つ①お互いに気持ちのいい話し方	・まわりの人とよいつながりをつくる話し方をみにつける。
5	まわりの人と、よいつながりをつくる②よくない関係や薬物のさそいに、Noを言う	・薬物などあぶないことにさそわれたときに、断れるようになる。
6	まわりの人と、よいつながりをつくる③他の人に相談し、問題解決をおこなう	自分のこまったことをじょうずに相談して、いっしょに問題を解決する方法を練習する。
7	まわりの人と、よいつながりをつくる④相手の話をきくこと	・聞き上手になろう。パートナーや友人や子どもなど親しい人のきもちを尊重したききかた。
8	感情とのつきあい方ークスリをつかわないで、自分の気持ちをコントロールする	・クスリでごまかすことなく、じょうずに自分のきもちをコントロールする方法をみにつけよう。
9	考え-気持ち-行動の結びつきを知る①上手に考え、気持ちをすっきりさせる	・自分の考え方によって、感情や行動がかわることを知ろう。・自分をおいつめる考え方をやめて、自分をたすける考え方をみにつける。
10	考え-気持ち-行動の結びつきを知る②自分を助けてくれる考え方をみつける	・自分のたすけになる考え方をみつけるコツを知ろう。・自分で自分によいアドバイスをおくれるようになろう。
11	現在の回復と今後の課題	・これまでやってきたことをまとめよう。・自分がどういうときに危ないか、今後どのようにやっていこうと思うかを互いに発表する。
12	薬物が身体や心に及ぼす影響について改めて考える	・刑務所をでる時期が近づいた時に、もう一度、薬物による害を思い出して、再発しないことの大事さを思い出す。
13	再発に関係する危険な状況や考えについて見直す	・ワークブックを見直し、また薬物をつかいたくなる「きっかけ」「あぶない状況」をみなおす。とくに時間がたつと、「もう大丈夫」とかんがえてしまいやすいので、そこを確かめる。
14	出所後の予定をたてる。	・出所後の1ヶ月の生活のスケジュールをたてる。自助グループの利用についてもここで確認する。・特にあぶないと思われる場面でのりきる方法をロールプレイなどで試す。
15	再発の危険時に用いるカードを作る	・再発の危険が迫った時に役に立つ注意事項を書いたカードを作る。内容は「危険な状況、きっかけ」「再発の危険がせまったとき私はこうする」「自分へのアドバイス」「私が薬物をやめようと決意したわけ」である。・カードの内容をお互いに紹介しあった上で、参加者同士でもう一枚のカードに励ましの言葉をよせがきする。・プログラム全体の感想を話す。

表 2. 男女における心理尺度（プログラム前）の得点

サブスケール	男性			女性			有意確率
	N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
再使用不安と意図	137	1.43	0.36	165	1.44	0.35	.831
感情面の問題	137	1.53	0.36	165	1.58	0.41	.537
薬物使用への衝動性	137	1.11	0.26	165	1.09	0.23	.419
薬物へのポジティブ期待と刺激脆弱性	137	1.61	0.48	165	1.62	0.48	.905
薬害認識の欠如	137	1.91	0.50	165	1.87	0.49	.604
病識の強さ	137	1.72	0.53	165	1.69	0.50	.520
再発リスク総得点	137	7.59	1.19	165	7.60	1.18	.947
薬物依存に対する全般的な自己効力感総得点	137	20.5	3.2	165	20.7	3.3	.500
薬物依存に対する場面特異的な自己効力感総得点	137	61.8	12.9	165	62.1	13.4	.562
緊張－不安	138	6.9	4.9	166	7.1	4.8	.581
抑うつ	138	4.8	4.1	166	5.1	4.0	.400
攻撃性－敵意	138	2.6	3.1	166	2.9	3.3	.490
活気	138	8.5	5.1	166	8.1	4.7	.713
疲労感	138	4.5	4.1	166	4.8	4.3	.593
混乱	138	6.2	3.7	166	6.2	3.8	.990
感情的問題総合得点 (TMD)	138	16.6	17.7	166	18.1	18.0	.449
有意確率は、Mann－WhitneyのU検定による。							

表 3 男性における暴力ダメージの有無による心理尺度の違い

男性								
尺度	サブスケール	暴力ダメージなし			暴力ダメージあり			有意確率
		N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
再発リスク尺度	再使用不安と意図	110	1.37	0.33	28	1.70	0.33	0.000
	感情面の問題	110	1.45	0.30	28	1.87	0.42	0.000
	薬物使用への衝動性	110	1.08	0.21	28	1.23	0.39	0.029
	薬物へのポジティブ期待と刺激脆弱性	110	1.55	0.47	28	1.88	0.47	0.001
	薬害認識の欠如	110	1.92	0.49	28	1.84	0.53	0.572
	病識の強さ	110	1.67	0.54	28	1.94	0.46	0.011
	再発リスク総得点	110	7.37	1.07	28	8.52	1.27	0.000
薬物依存に対する自己効力感	薬物依存に対する全般的な自己効力感	110	21.0	2.8	28	18.6	3.8	0.000
	薬物依存に対する場面特異的な自己効力感	110	62.8	12.2	28	57.4	14.5	0.047
POMS	緊張－不安	110	5.8	4.5	28	11.3	4.0	0.000
	抑うつ	110	4.1	3.8	28	7.7	4.0	0.000
	攻撃性－敵意	110	2.3	2.9	28	4.0	3.6	0.009
	活気	110	8.4	5.3	28	8.6	4.1	0.490
	疲労感	110	3.8	3.9	28	7.3	3.8	0.000
	混乱	110	5.6	3.5	28	8.5	3.7	0.000
	感情的問題総合得点 (TMD)	110	13.2	16.8	28	30.2	14.2	0.001

表 4 女性における暴力ダメージの有無による心理尺度の違い

尺度	サブスケール	暴力ダメージなし			暴力ダメージあり			有意確率
		N	平均値	標準偏差	N	平均値	標準偏差	
再発リスク尺度	再使用不安と意図	120	1.39	0.33	47	1.58	0.38	0.002
	感情面の問題	120	1.46	0.31	47	1.89	0.45	0.000
	薬物使用への衝動性	120	1.08	0.20	47	1.13	0.28	0.411
	薬物へのポジティブ期待と刺激脆弱性	120	1.55	0.47	47	1.79	0.47	0.003
	薬害認識の欠如	120	1.88	0.48	47	1.86	0.50	0.801
	病識の強さ	120	1.62	0.50	47	1.86	0.47	0.002
	再発リスク総得点	120	7.36	1.05	47	8.24	1.25	0.000
薬物依存に対する自己効力感	薬物依存に対する全般的な自己効力感	120	21.2	3.0	47	19.5	3.8	0.011
	薬物依存に対する場面特異的な自己効力感	120	62.8	13.0	47	61.0	14.2	0.531
POMS	緊張－不安	120	5.9	4.3	47	10.4	4.6	0.000
	抑うつ	120	4.1	3.4	47	7.6	4.2	0.000
	攻撃性－敵意	120	2.3	2.8	47	4.5	4.0	0.000
	活気	120	8.4	4.8	47	7.6	4.5	0.453
	疲労感	120	4.1	4.0	47	6.7	4.4	0.000
	混乱	120	5.3	3.3	47	8.6	4.0	0.000
	感情的問題総合得点 (TMD)	120	13.3	16.1	47	30.1	16.6	0.000
統計は、Mann－WhitneyのU検定								

表 5 プログラム前における暴力ダメージと心理尺度の相関分析

尺度	サブスケール		男性				女性			
			身体的暴力 のダメージ	心理的暴力 のダメージ	性的暴力の ダメージ	暴力ダメー ジ	身体的暴力 のダメージ	心理的暴力 のダメージ	性的暴力の ダメージ	暴力ダメー ジ
再発リス ク尺度	再使用不安と意 図	相関係数	.239	.229	.109	.272	.192	.108	.104	.202
		有意確率	.005	.007	.201	.001	.013	.165	.180	.009
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	感情面の問題	相関係数	.413	.391	.218	.447	.431	.434	.249	.492
		有意確率	.000	.000	.010	.000	.000	.000	.001	.000
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	薬物使用への衝 動性	相関係数	.080	.083	.025	.132	.044	.050	-.012	.057
		有意確率	.352	.332	.769	.122	.574	.519	.878	.467
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	薬物へのポジ ティブ期待と刺激 脆弱性	相関係数	.152	.160	.017	.186	.145	.085	.037	.154
		有意確率	.076	.060	.841	.029	.061	.277	.633	.046
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	薬害認識の欠如	相関係数	-.094	-.115	-.193	-.154	-.104	-.094	-.192	-.156
		有意確率	.273	.180	.024	.071	.180	.229	.013	.044
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	病識の強さ	相関係数	.096	.107	.013	.110	.190	.101	.073	.173
		有意確率	.261	.210	.876	.198	.014	.194	.349	.026
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	再発リスク総得 点	相関係数	.240	.226	.039	.259	.227	.180	.059	.235
		有意確率	.005	.008	.648	.002	.003	.020	.450	.002
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
薬物依 存に対 する自 己効力 感	薬物依存に対す る全般的な自己 効力感	相関係数	-.217	-.133	-.081	-.195	-.184	-.118	-.102	-.177
		有意確率	.011	.120	.345	.022	.017	.127	.191	.022
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	薬物依存に対す る場面特異的な 自己効力感	相関係数	-.167	-.102	-.043	-.183	-.053	-.001	-.075	-.064
		有意確率	.051	.234	.615	.032	.501	.988	.340	.412
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
POMS	緊張－不安	相関係数	.412	.408	.274	.492	.367	.401	.316	.468
		有意確率	.000	.000	.001	.000	.000	.000	.000	.000
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	抑うつ	相関係数	.308	.390	.262	.418	.290	.410	.297	.422
		有意確率	.000	.000	.002	.000	.000	.000	.000	.000
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	攻撃性－敵意	相関係数	.153	.186	.062	.235	.157	.238	.109	.258
		有意確率	.074	.029	.468	.006	.042	.002	.159	.001
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	活気	相関係数	.103	.047	.070	.043	.029	-.063	.038	-.022
		有意確率	.228	.581	.414	.617	.709	.419	.630	.776
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	疲労感	相関係数	.237	.315	.155	.346	.164	.299	.191	.301
		有意確率	.005	.000	.070	.000	.034	.000	.014	.000
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	混乱	相関係数	.307	.256	.211	.345	.330	.314	.271	.403
		有意確率	.000	.002	.013	.000	.000	.000	.000	.000
		N	138	138	138	138	167	167	167	167
	感情的問題総合 得点 (TMD)	相関係数	.364	.397	.222	.467	.314	.404	.263	.443
		有意確率	.000	.000	.009	.000	.000	.000	.001	.000
		N	138	138	138	138	167	167	167	167

Spearman の相関係数

表 6 自己効力感尺度の各項目と暴力のダメージの相関

尺度	サブスケール		男性(N=138)				女性(N=167)			
			身体的暴力のダメージ	心理的暴力のダメージ	性的暴力のダメージ	暴力ダメージ	身体的暴力のダメージ	心理的暴力のダメージ	性的暴力のダメージ	暴力ダメージ
全般的な自己効力感	薬物を使いたくなるきっかけをわかっていて避けられる	相関係数	-0.110	0.035	-0.017	-0.120	-0.102	0.028	-0.032	-0.121
		有意確率	0.199	0.686	0.843	0.162	0.191	0.718	0.685	0.119
	もし薬物を使いたくなることがあっても、何とか使わないで切り抜けられる	相関係数	-0.185	-0.045	-0.056	-0.139	-0.056	-0.011	-0.024	-0.026
		有意確率	0.030	0.597	0.514	0.103	0.471	0.893	0.761	0.740
	薬物がなくても生活していける自信がある	相関係数	-0.143	-0.085	0.155	-0.115	-0.122	-0.067	0.164	-0.094
		有意確率	0.094	0.320	0.069	0.181	0.117	0.388	0.034	0.229
	困った時に、薬に頼らず、周りの人に相談することができる	相関係数	-0.154	-0.131	-0.092	-0.211	-0.168	-0.119	-0.048	-0.184
		有意確率	0.071	0.126	0.281	0.013	0.030	0.126	0.542	0.017
	何かあっても、あわてずやっていける落ち着いた気持ちをもてる	相関係数	-0.276	-0.206	-0.130	-0.291	-0.205	-0.171	-0.068	-0.241
		有意確率	0.001	0.015	0.130	0.001	0.008	0.027	0.380	0.002
	昔の嫌な記憶や嫌な気分がでてきても何とかのりきることができる	相関係数	-0.257	-0.141	-0.117	-0.280	-0.226	-0.098	-0.129	-0.252
		有意確率	0.002	0.099	0.171	0.001	0.003	0.208	0.096	0.001
	相手に対して感謝し、それを相手に伝えることができる	相関係数	-0.097	-0.115	-0.025	-0.101	-0.055	-0.050	-0.034	-0.058
		有意確率	0.255	0.178	0.774	0.239	0.483	0.518	0.659	0.457
	人の痛みや苦しみを理解することができる	相関係数	-0.051	0.037	0.073	-0.008	0.100	0.121	0.075	0.118
		有意確率	0.555	0.670	0.396	0.925	0.199	0.120	0.335	0.130
	相手に対し、状況に応じて、自分の考えや意見を言うことができる	相関係数	-0.299	-0.183	-0.067	-0.292	-0.179	-0.178	-0.104	-0.227
		有意確率	0.000	0.032	0.435	0.001	0.021	0.021	0.180	0.003
個別場面の自己効力感	今では、自分が依存症となった原因を自分なりに理解できている	相関係数	-0.084	-0.063	-0.030	-0.072	0.062	-0.005	-0.012	0.051
		有意確率	0.328	0.461	0.728	0.400	0.427	0.952	0.876	0.512
	これまでの考え方や生き方を変えようと思っている	相関係数	-0.003	0.063	0.152	0.011	0.055	0.053	0.089	0.053
		有意確率	0.972	0.461	0.074	0.896	0.481	0.494	0.252	0.498
	過去や未来のことを気にせず、今日一日をクスリを使わず、精いっぱい生きた	相関係数	0.004	-0.076	0.030	-0.023	0.029	-0.103	0.003	0.004
		有意確率	0.960	0.379	0.726	0.791	0.707	0.183	0.971	0.954
	薬物を使うことに誘われた時	相関係数	-0.223	-0.084	0.043	-0.175	-0.081	0.013	0.063	-0.041
		有意確率	0.008	0.326	0.618	0.040	0.299	0.869	0.422	0.601
	他の人が薬物を使っているところを見た時	相関係数	-0.136	-0.020	0.054	-0.164	-0.033	0.061	0.130	-0.019
		有意確率	0.112	0.818	0.530	0.054	0.673	0.436	0.094	0.810
	ちょっとなら大丈夫と試したくなった時	相関係数	-0.164	-0.028	0.007	-0.150	-0.061	0.046	0.053	-0.017
		有意確率	0.054	0.747	0.937	0.078	0.431	0.557	0.500	0.829
	セックスしたい気持ちから薬物を用いたくなった時	相関係数	-0.024	0.026	0.108	0.035	-0.019	0.059	0.102	0.043
		有意確率	0.780	0.764	0.209	0.683	0.805	0.447	0.189	0.577
	ストレスや疲れにより薬物が欲しくなった時	相関係数	-0.150	0.057	-0.131	-0.130	-0.098	0.072	-0.008	-0.061
		有意確率	0.079	0.505	0.126	0.127	0.208	0.352	0.916	0.434
	よく眠れず薬物が欲しくなった時	相関係数	-0.127	0.018	0.172	-0.098	-0.064	0.085	0.188	-0.026
		有意確率	0.137	0.838	0.044	0.252	0.415	0.274	0.015	0.737
	の不調や苦痛により薬物を使いたくなった時	相関係数	-0.165	-0.071	0.105	-0.137	-0.055	0.008	0.140	-0.035
		有意確率	0.054	0.408	0.220	0.108	0.479	0.921	0.071	0.657
	人間関係の悩みで薬物を使いたくなった時	相関係数	-0.139	0.008	0.049	-0.107	-0.064	0.064	0.099	-0.023
		有意確率	0.105	0.930	0.566	0.211	0.410	0.415	0.204	0.768
	ちこみや不安により薬物が欲しくなった時	相関係数	-0.084	0.033	0.085	-0.075	-0.001	0.091	0.126	0.027
		有意確率	0.330	0.698	0.320	0.384	0.992	0.244	0.104	0.728
	腹が立って薬物が欲しくなった時	相関係数	-0.147	-0.009	-0.024	-0.126	-0.099	-0.017	0.030	-0.074
		有意確率	0.085	0.913	0.783	0.142	0.205	0.832	0.699	0.341
	孤独で、さみしくて薬物が欲しくなった時	相関係数	-0.121	0.044	0.010	-0.080	-0.071	0.072	0.036	-0.041
		有意確率	0.156	0.609	0.909	0.348	0.359	0.354	0.645	0.597
	昔の嫌な記憶が思い浮かんだとき	相関係数	-0.134	0.066	-0.057	-0.095	-0.128	0.088	-0.003	-0.070
		有意確率	0.117	0.445	0.504	0.269	0.099	0.258	0.971	0.369

表 7 男性におけるプログラム前後の心理尺度の変化

尺度	サブスケール	N	プレ		ポスト		Z	有意確率
			平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
再発リスク尺度	再使用不安と意図	137	1.43	0.36	1.33	0.32	-3.623	.000
	感情面の問題	137	1.53	0.36	1.46	0.37	-2.537	.011
	薬物使用への衝動性	137	1.11	0.26	1.08	0.21	-.839	.407
	薬物へのポジティブ期待と刺激脆弱性	137	1.61	0.48	1.50	0.45	-2.805	.005
	薬害認識の欠如	137	1.91	0.50	1.76	0.50	-3.335	.001
	病識の強さ	137	1.72	0.53	1.65	0.46	-2.035	.042
	再発リスク総得点	137	7.59	1.19	7.13	1.17	-4.790	.000
薬物依存に対する自己効力感	薬物依存に対する全般的な自己効力感総得点	137	20.5	3.2	22.4	2.7	-6.888	.000
	薬物依存に対する場面特異的な自己効力感総得点	137	61.8	12.9	66.5	10.3	-4.688	.000
POMS	緊張－不安	138	6.9	4.9	5.8	4.5	-3.191	.001
	抑うつ	138	4.8	4.1	3.5	3.7	-4.446	.000
	攻撃性－敵意	138	2.6	3.1	2.9	3.5	-.909	.365
	活気	138	8.5	5.1	8.4	5.2	-.123	.903
	疲労感	138	4.5	4.1	4.5	4.4	-.336	.738
	混乱	138	6.2	3.7	5.4	3.3	-3.225	.001
	感情的問題総合得点 (TMD)	138	16.6	17.7	13.6	17.8	-2.781	.005

Wilcoxon の順位和検定による。

表 8 女性におけるプログラム前後の心理尺度の変化

女性								
尺度	サブスケール	N	プレ		ポスト		Z	有意確率
			平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
再発リスク尺度	再使用不安と意図	165	1.44	0.35	1.41	0.37	-1.4473	0.15
	感情面の問題	165	1.58	0.41	1.51	0.36	-2.4537	0.01
	薬物使用への衝動性	165	1.09	0.23	1.12	0.26	-1.0425	0.30
	薬物へのポジティブ期待と刺激脆弱性	165	1.62	0.48	1.56	0.46	-1.7190	0.09
	薬害認識の欠如	165	1.87	0.49	1.71	0.47	-4.2212	0.00
	病識の強さ	165	1.69	0.50	1.66	0.43	-0.3566	0.72
	再発リスク総得点	165	7.60	1.18	7.31	1.19	-3.3140	0.00
薬物依存に対する自己効力感	薬物依存に対する全般的な自己効力感総得点	165	20.7	3.3	21.9	3.0	-5.1061	0.00
	薬物依存に対する場面特異的な自己効力感総得点	165	62.1	13.4	65.9	9.9	-3.8774	0.00
POMS	緊張－不安	166	7.1	4.8	6.7	4.4	-1.2685	0.20
	抑うつ	166	5.1	4.0	4.4	4.0	-2.8431	0.00
	攻撃性－敵意	166	2.9	3.3	3.6	3.8	-2.1256	0.03
	活気	166	8.1	4.7	7.9	4.9	-0.3173	0.75
	疲労感	166	4.8	4.3	5.2	4.6	-1.2302	0.22
	混乱	166	6.2	3.8	6.0	3.4	-0.9060	0.36
	感情的問題総合得点 (TMD)	166	18.1	18.0	17.8	17.9	-0.3191	0.75

Wilcoxon の順位和検定による。

表 9 暴力のダメージの変化と心理尺度の変化の相関

尺度	サブスケール	項目	男性				女性			
			身体的暴力のダメージの変化	精神的暴力のダメージの変化	性的暴力のダメージの変化	暴力ダメージ悩み変化	身体的暴力のダメージの変化	精神的暴力のダメージの変化	性的暴力のダメージの変化	暴力ダメージ悩み変化
再発リスク尺度の変化	「再使用不安と意図」の変化	相関係数	.142	.224	.198	.233	.208	.179	.293	.256
		有意確率	.098	.008	.021	.006	.007	.021	.000	.001
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	「感情面の問題」の変化	相関係数	.144	.190	.099	.156	.199	.247	.104	.258
		有意確率	.093	.026	.248	.068	.010	.001	.184	.001
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	「薬物使用への衝動性」の変化	相関係数	.025	.011	.034	.032	-.002	.066	.158	.065
		有意確率	.775	.902	.690	.710	.981	.400	.043	.406
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	「薬物へのポジティブ期待と刺激脆弱性」の変化	相関係数	.009	.136	.112	.096	-.016	.100	.150	.098
		有意確率	.914	.114	.192	.264	.837	.200	.054	.211
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	「薬害認識の欠如」の変化	相関係数	-.165	-.072	-.087	-.116	-.223	-.132	-.027	-.179
		有意確率	.054	.400	.311	.177	.004	.090	.727	.022
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
薬物依存に対する自己効力感	「緊張—不安」の変化	相関係数	.130	.100	.064	.145	.129	.111	-.047	.121
		有意確率	.130	.245	.455	.091	.098	.156	.548	.123
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	「抑うつ」の変化	相関係数	.167	.156	.163	.153	.158	.224	.168	.199
		有意確率	.051	.069	.057	.075	.043	.004	.031	.010
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	「攻撃性—敵意」の変化	相関係数	.028	.056	.092	.078	.044	.121	.179	.138
		有意確率	.745	.514	.284	.363	.577	.122	.021	.077
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	「活気」の変化	相関係数	-.016	.042	-.048	-.003	-.009	.027	-.044	-.005
		有意確率	.855	.630	.579	.970	.910	.731	.573	.944
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	「疲労感」の変化	相関係数	.175	.206	.154	.216	.124	.201	.145	.208
		有意確率	.041	.016	.073	.011	.112	.010	.063	.007
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
POMS	「混乱」の変化	相関係数	.161	.037	.070	.114	.255	.099	.063	.184
		有意確率	.061	.665	.417	.186	.001	.208	.420	.018
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	感情的問題総合得点(TMD)の変化	相関係数	.187	.170	.145	.198	.173	.208	.146	.223
		有意確率	.029	.047	.092	.020	.026	.007	.061	.004
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	薬物依存に対する全般的な自己効力感の変化	相関係数	-.023	-.054	-.051	-.054	-.036	-.076	-.038	-.091
		有意確率	.786	.532	.553	.530	.644	.331	.631	.246
		N	137	137	137	137	165	165	165	165
	薬物依存に対する場面特異的な自己効力感の変化	相関係数	.024	-.058	-.035	-.013	-.067	-.054	-.017	-.039
		有意確率	.779	.504	.683	.879	.390	.490	.830	.621
		N	137	137	137	137	165	165	165	165

Spearman の相関係数を示した。

表 10 ト라우マ症状を持つ薬物依存症事例に対するプログラムのマニュアルの内容

回	タイトル	概要
第1回	薬物・危険な行動・関係から自分を守り、回復に向かう方法	・自分は薬物やその他の依存しているものによりどんな影響を受けてきたか？を考える。 ・回復には、薬物や他の依存しているものをやめるだけではなくて、身体―心―社会での活動(仕事や家族)―生きがいの4つの面のすべてで回復することが必要です。 ・薬物からはなれて、なりたい「新しい自分のイメージを考える。
第2回	クスリの「欲求」がでる「あぶない状況」と「ひきがね」	・クスリの「欲求」がおきやすい危険な状況とひきがねを知っておこう。これをきりぬける方法を考えよう。
第3回	クスリにこれ以上人生をじゃまされないで、あたらしい生き方をつくっていく計画をたてよう	・「依存症とはどんなものか？」「回復すると何が変わってくるのか？」を考える。 ・自分の心の中に、「薬物をつかってもいい」という考え(依存症)の考えと、「やめていこう」という考え、落ちついた考えの2つの考えがあることを知(し)ろう。 ・薬物(なしでやっていく「落ちついた考え」をふやしていくことを助けてくれるものと、じゃまするもの確かめ、今後の回復計画を考える。
第4回	感情とのつきあい方(1)	・自分の感情の出し方や対応方法のクセを考える。 ・役に立っているクセはより多くしよう。あまりよい結果にむすびつかないクセは、かえてみる。とくに怒りや悲しみなどをづらい気持ちをいやすには、どうすることが役にたつかを考える。
第5回	感情とのつきあい方(2)	・自分のもっている感情を確かめ、それをため込まず表現することを練習する。 ・感情の中にも、自然な感情と、とらわれた感情があることを知る。とらわれた感情は過去の傷つけられた体験によって発生し、「ためこみ」「やつあたり」「薬物による麻痺」などの適切でない対応が悪循環をうむことを考える。 □わかってくれる人に、薬をつかわず、より素直な表現をしていくことで楽になることを知り、練習しよう。
第6回	トラウマによる影響(PTSD、とらわれた考え方・行動)を知り、依存症との関係を検討する	・自分の感情を左右する考え方をみつけられるようになる。 ・PTSDやトラウマに関係する「とらわれた考え方」について知って、そうしたものが自分にないかを考える。 ・依存症とトラウマの関係を考える。
第7回	自分を大事にする考えをしっかりとって、よくない関係や薬物のさそいに、Noを言うこと	・自分を守ってくれるもの(人)と、自分を傷つけるもの(人)の区別をつける。 ・自分自身をだいじにする権利があることをあらためて確かめ、トラウマや薬物の影響で自分を大事にできない考えや行動が生じてきたことを考える。 ・自分を傷つけるよくない関係や薬物のさそいに対し、Noを言う練習をしよう。
第8回	自分の応援団を増やそう、難しい人とは適度な距離をとろう	・1)トラウマ体験によってすり込まれている「とらわれた考え方」のうち、他人に対する適度な信頼感・距離が保てない考えについて見なおそう。 ・2)自分の応援団(安全基地となる人)を検討し、これを増やすことを考えてみる。
第9回	自分を肯定すること否定すること	・トラウマ体験や依存症にかかることで、「自己否定的な考え」がすり込まれてしまうことを知りましょう。 ・自分がもっている自己否定的な考えと、自己肯定的な考えをみつける。 ・「自己否定的な考え」に巻き込まれそうになった時にこれを変えるコツを練習する。
第10回	相手と自分を尊重する話し方＝アサーティブな話し方	自分の本音をおさえずたり、自分の考えを相手に押しつけすぎると、気分がすっきりしなくなり、感情の問題(うつ・不安・イライラ)やドラッグへの欲求のスイッチがはいりやすくなります。お互いの気持ちを大事にできる話し方を、みにつけましょう。
第11回	トラウマに影響された考え方を変える: 自分と他人のコントロールに関する考え方	・トラウマ体験が、コントロールに関する考え方に影響して、「全くコントロールできない」と考えるようになるか、「完全にコントロールしようとする」の両極端になりやすいことを知ろう。自分や他人に対するコントロールについて、できることとできないことをおちついて判断できる考え方ができるようにしていこう。
第12回	再発防止のために難しい対人関係の場面を乗り切る方法を身につけよう	再発(気持ちが不安定になる、薬物を使いたくなる)対人関係上の難しい場面で使える3つのテクニックを身につけよう。(1. アイメッセージ+壊れたレコード法、2. タイムアウト。3. 問題解決法)
第13回	再発防止のカードを作り、互いにメッセージを交換するー	危険(薬物の使用の危険、気持ちの面でおいづめられた時など)がせまったとき、自分をたすけてくれるカードを作る。

表 11. 女性民間社会復帰社会復帰施設用プログラムの内容

回	テーマ	概要
1	薬物依存症によるダメージと回復	・クスリによってどんな影響をうけてきたかをしろう。・これからどんな自分になりたいかを考えよう。
2	感情とのつきあい方ークスリをつかわないで,自分の気持ちをコントロールする,不安への対処	・クスリでごまかすことなく,じょうずに自分のきもちをコントロールする方法をみにつけよう。
3	感情とのつきあい方ートラウマによる影響	・自分のもっている感情を確かめ,それをため込まず表現することを練習する。トラウマによる縛られた感情の対処として薬物fがもちいられることを知り,薬物を使わない感情への対処を考える。
4	コミュニケーションスキルーまわりの人と,よいつながりをつくる①アサーティブネス	・自分の周りの人間関係を振り返り,その影響を考える。自分も相手の考えの両方を尊重するアサーティブなコミュニケーションを練習する。
5	コミュニケーションスキルーまわりの人と,よいつながりをつくる②よくない関係や薬物のさそいに,Noを言う	・薬物などあぶないことにさそわれたときに,断れるようになる。
6	コミュニケーションスキル③ー子育てのスキル	・コミュニケーションスキルを身につけるために,子どもとよい関係をつくるプログラムCAREを用いる。特に今回は,子どもと良い関係をつくる上で用いるべきスキル(くり返す,相手の行動を言葉にする,具体的にほめる)と多く使わない方が良いスキル(質問,命令,禁止・否定)を知り,練習を行う

表 12. 医療機関のプログラム施行における心理尺度の変化

		N	調査開始時点		最後の調査時点		P値
			平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自己効力感	全般的な自己効力感	12	16.1	4.8	16.8	3.6	0.429
	個別場面の自己効力感	12	50.0	15.8	46.8	16.7	0.263
SOCRATES	総得点	14	68.6	7.6	70.7	5.8	0.232
	「迷い」	14	25.9	3.3	26.9	2.3	0.507
	「実行」	14	29.2	4.2	30.1	4.9	0.263
IES-R	総得点	13	40.5	17.7	41.0	15.6	0.817
SOC	総得点	11	18.4	3.6	20.7	2.5	0.090
	「処理可能感」	11	7.2	2.0	8.9	1.6	0.008
	「把握可能感」	11	5.6	1.0	6.0	1.1	0.397
	「有意味感」	11	5.5	2.3	5.8	1.4	0.700
POMS	TMD	15	49.6	19.5	49.9	21.8	0.593
統計的検定は、対応のあるt検定による							

表 13. 医療機関および女性薬物依存症社会復帰施設のプログラム施行における心理尺度の変化

		N	調査開始時点		最後の調査時点		P値
			平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
自己効力感	全般的な自己効力感	17	16.9	4.7	18.1	4.0	0.172
	個別場面の自己効力感	17	52.4	17.0	51.6	19.3	0.631
SOCRATES	総得点	18	68.0	7.6	71.3	5.2	0.074
	「迷い」	18	25.3	26.9	3.9	2.1	0.051
	「実行」	18	29.6	4.0	30.7	4.4	0.167
IES-R	総得点	17	37.8	18.3	36.5	17.7	0.516
SOC	総得点	16	23.4	8.9	26.4	9.1	0.015
	「処理可能感」	16	8.6	4.1	10.1	2.5	0.048
	「把握可能感」	16	7.3	2.9	8.3	3.6	0.034
	「有意味感」	16	7.5	3.9	8.1	3.8	0.295
POMS	TMD	19	49.6	18.7	49.3	21.2	0.810
統計的検定は、対応のあるt検定による							

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
「薬物依存症に対する認知行動療法プログラムの開発と効果に関する研究」
総合研究報告書

若年薬物乱用者向け認知行動療法プログラムの開発と効果に関する研究

研究分担者

嶋根卓也

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長

研究要旨

【目的】若年薬物乱用者向けに開発された認知行動療法プログラム『OPEN』の参加者の特徴を掴み、実施状況を把握し、その介入効果を検証することである。

【方法】対象は、非医療機関2施設（都立中部総合精神保健福祉センターおよび京都府薬務課）で実施された OPEN に参加した計 54 名である。自記式質問票およびカラーシールを用いた自己評価によって、アルコール・薬物使用の状況を含む情報収集を行った。

【主な結果と考察】

- 1) OPEN 参加者は、平成 24 年 12 月時点において、修了者 19 名 (35.2%)、実施中 22 名 (40.7%)、脱落者 13 名 (24.1%) と分類された。
- 2) 参加者の平均年齢は 27.9 歳と他施設に比べ若年層が中心ではあるが、DAST-20 スコアは他施設と比べても低くはなく、若年層とはいえ、薬物関連問題の重症度は決して軽度とは言えない対象者であることが伺われる。
- 3) 参加者の生活保護受給率は 27.8% であり、ダルク入所者の生活保護受給率 (63.4%) に比べ、極めて低いと言える。一方、4 割以上の参加者が何らかの仕事（多くがパートタイム）をしながらプログラムに参加しているという特徴がみられる。
- 4) プログラム脱落者は、修了者に比べ、プログラム開始前に医療や自助グループの介入を受けていないという特徴がみられた。薬物問題の早期介入の重要性が示唆される一方で、これまで介入を医療や自助グループの介入を受けてこなかった参加者に対しては、脱落リスクを念頭にいれながら、本人の治療動機の高めていくことが求められよう。
- 5) プログラム開始から 180 日間のモニタリングによれば、参加者の薬物使用率は低く (0.4%～2.0%)、断薬状態が良好に保たれていることがうかがわれる。研究デザイン上の理由により、認知行動療法による介入が断薬効果にどの程度影響しているかを証明することは困難であるが、参加者がプログラムに定着し、継続参加することで、本人の断薬効果に何らかの影響を与えている可能性は否定できない。

研究協力者

菅原 誠 東京都立中部総合精神保健福祉センター生活訓練科長
田中さゆり 東京都立中部総合精神保健福祉センター広報援助課相談係長
平 重忠 東京都立中部総合精神保健福祉センター広報援助課相談係
菊池晴美 東京都立中部総合精神保健福祉センター広報援助課相談係
藤原佑美 東京都立中部総合精神保健福祉センター広報援助課相談係
藤堂千浪 東京都立中部総合精神保健福祉センター広報援助課相談係
染谷和子 東京都立中部総合精神保健福祉センター広報援助課相談係（当時）
岡崎重人 川崎ダルクスタッフ
五十公野 理恵子 ダルク女性ハウス
入口稔枝 京都府健康福祉部薬務課 副課長
中川拓也 京都府健康福祉部薬務課 副主査
横田薫 京都府健康福祉部薬務課 副課長（当時）
加藤武士 京都ダルク
太田実男 京都ダルク

A. 研究目的

薬物依存症例は、10代～20代前半といった若年期に薬物乱用を開始する場合が少なくない^{1,2)}。薬物関連問題の早期解決という観点から、若年者に対する薬物乱用防止対策は、薬物乱用を開始させない一次予防のみならず、再乱用防止や社会復帰支援といった二次・三次予防についても同様に充実させていくことが求められる。しかし、地域における若年薬物使用者の受け皿は驚くほど少なく、若年者に特化した治療プログラムは量的にも質的にも不足した状況が続いている。

そこで著者らは、若年薬物使用者に対する地域の受け皿の一つの形態として、平成21年度より東京都立中部総合精神保健福祉センター（以下、中部セン

ターと表記）と協働し、「若年薬物乱用者向け認知行動療法プログラム”OPEN”」（以下、OPENと表記）を開発し、その効果検証を進めている。中部センターでは、平成22年3月よりOPENを開始し、平成23年8月からは京都府薬物再乱用防止教育事業（実施機関：京都府薬務課）にもOPENが採用され、京都ダルク職員の協力のもとでOPENが開始された。

OPENは、SMARPP^{3,4)}、SMARPP-Jr⁵⁾、及び森田ら開発した認知行動療法プログラム⁶⁾をベースに、若年薬物使用者向けにアレンジを加えたプログラムである。したがって、ワークブックを用いたグループセッション、理論的背景（引き金理論）、随伴性マネジメント、動機付け面接など、プログラムの治療コンポーネントは上述のプログラムと共通する部分が多い。

ただし、薬物乱用歴が比較的短い若年薬物乱用者に馴染みやすいように、読み手を薬物依存者と決めつけない表現を心がけ、専門用語や難解な表現は、平易な言葉や表現に置き換えるなどの修正を施した。また、若年女性薬物使用者を意識したコラムやセッションの追加や、コミュニケーションスキルの獲得を目的とするセッションを追加するといったアレンジも加えた。

本研究では、まず、プログラム参加者の特徴を記述する（目的1）。次に、プログラム修了者と脱落者の背景を探ることで、プログラムからの脱落防止について考察する（目的2）。また、プログラム開始から半年間のアルコール・薬物使用状況を把握するとともに、様々な心理尺度を用いて介入前後の変化を観察することで、認知行動療法の介入効果を検証したい（目的3）。

B. 研究方法

1. 対象者

対象は、非医療機関2施設（中部センターおよび京都府薬務課）で実施されているOPENにエントリーした若年薬物使用者54名である。中部センターでは平成22年3月から平成24年12月までに計37名